

「関西の総会」

川添 正 實 (法3回卒)

今回は、関西の総会風景をお話ししよう。

平成五年の大会は、藤田觀光の大園園で開催された。五回卒笹原専務の好意にすぎたのは言わずもがな、である。

会の幕は例年通り、巻頭言によって切って落とされた。イキの良い若手も、夫々中年肥りの幹部となり職務優先の欠席は止むなく、心ならずも巻頭言のお鉢がここ二年私に廻って来た。

本人はすこぶる気持良く朗々と切ったつもりではいたが、大久保事務局長(十回卒)の「おトシを考えて、せいぜい御自愛の程を……」との言葉から察すると、額の青筋が切れかかっていたの絶叫的蛮声だったのかもしれない。

武夫原頭に草萌えて……の大唱和のあとの谷会長(一回卒)の挨拶、大久保君のこの一年の経過報告は例年通り。そして乾杯に入る。

今回は、二回卒の黒田先輩。三池の出身で国税局く京セラくカプコンと陽の当たる場所を渡り歩いた人物だが、大阪時代は税務査察でとり囲む暴力団相手に、三池炭鉱のドスのきいた啖呵で押さえ込んだこともある親分肌は今も劣えず、盃を右手にかざして場内をグイッとにらんだの音頭は流石であった。

さて、関西は吉本興業の本場であるせい、かの進行が誠に面白い。(関西ではオモロイと読む。)大久保君の会社の仕事を忘れての企画に負う所「大」なのであるが、一ツニツ紹介しよう。

「ジャンケン大会。」他愛のないジャンケンではあるが、まず勝抜戦。全員が首に五〇円玉ネックレスを下げる。五〇玉をタコ糸でくくりつけたものだ。負けた者はこれをはずし次々と勝利者に掛けて行き、優勝者はこのタコ糸ネックレスを首一杯ジャラジャラとかけてガッツポーズ!!

次いで「負け抜き合戦」最終の落ちこぼれ者が賞品を手にするのだが、今回はナント大園園の「グルメ食事券」であった。そして負け残り一回卒の本田先輩と大久保君となったのだ。大久保君は先輩に譲ると言ったが、武夫原魂を尊ぶ一同は情実を許さず、ヤレヤレ!の大喚声。結果は大久保君の負け……。いや勝ちとなったが、本人の事情で今回をもって事務局長の職を辞し、関西を離れる彼への何よりのプレゼントとなり一回大拍手であった。

セーノ/アイン、ツバイ、ドライ!!の掛声で勝つて勝どき、負けて大仰に床に伏すものと、武夫原健児は今もなお単純明朗である。

「ビンゴゲーム」今回は桂三枝の一の弟子である桂三馬枝君が司会を勤めたが、流石軽妙洒脱。話術の巧さに引きずり込まれ一同ひたすらビンゴの紙とにらめっこ。歓声と嘆息の連続の中、ビンゴ成立者が次々と壇上に並べられた景品を自由にとって行くのだが、景品は有志が中元や歳暮の余剰品とか会社のアプローチ賞品を持ち寄ったもので、意外に豪華なものがあり、高々とかかげて小躍りする姿は、同窓会ならではものものだ。

そんなこんなでカラオケの時間が充分とれず、切齒扼腕の士は、二次会、三次会とネオン街に散って行く先々で各期大いに氣勢をあげている。

会のしめくくりは勿論、「易水流れ寒うして」の大合唱と万才三唱!! 政治を、経済を、勤務先の足枷、手枷を離れ、先輩後輩の垣根をとっばらったの大騒ぎ。関西的武夫原会は、今年も十一月に開催される予定である。